

商品名 スルピリド錠50mg「サワイ」 医薬品基本情報

薬効	2329 その他の消化性潰瘍用剤	一般名	スルピリド50mg錠
英名	Sulpiride	剤型	錠
価格	6.60	規格	50mg 1錠
メーカー	沢井製薬	毒劇区分	

スルピリド錠50mg「サワイ」の効能・効果

胃潰瘍、十二指腸潰瘍、統合失調症、うつ状態、うつ病

スルピリド錠50mg「サワイ」の使用制限等

- 本剤成分又は含有成分で過敏症の既往歴、プロラクチノーマ、プロラクチン分泌性下垂体腫瘍、褐色細胞腫又はその恐れ・疑い、パラガングリオーマ又はその恐れ・疑い
- 低血圧又はその恐れ・疑い、心・血管疾患又はその恐れ・疑い、QT延長、QT延長を起こし易い体质、低カリウム血症、著明な徐脈、パーキンソン病、レビー小体型認知症、栄養不良状態を伴う身体的疲弊、脱水を伴う身体的疲弊、脱水状態、肥満、長期臥床、不動状態、腎機能障害、高齢認知症

記載場所 使用上の注意
注意レベル 禁止

記載場所 使用上の注意
注意レベル 注意

スルピリド錠50mg「サワイ」の副作用等

- 死亡
- 悪性症候群、Syndrome malin、無動黙黙、強度筋強剛、嚥下困難、頻脈、血圧変動、発汗、発熱、白血球増加、血清CK上昇、ミオグロビン尿、腎機能低下、高熱が持続、意識障害、呼吸困難、循環虚脱、脱水症状、急性腎障害、痙攣、QT延長、心室頻拍、Torsades de Pointes、無顆粒球症
、白血球減少、AST上昇、ALT上昇、γ-GTP上昇、Al-P上昇、肝機能障害、黄疸、遅発性ジスキネジア、口周部不随意運動、不随意運動、深部静脈血栓症、肺塞栓症、静脉血栓症、血栓塞栓症、息切れ、胸痛、四肢疼痛、浮腫
- 心電図変化

記載場所 重大な副作用
頻度 頻度不明

記載場所 重大な副作用
頻度 0.1%未満

記載場所 その他の副作用
頻度 頻度不明

4. 月経異常、乳汁分泌、女性化乳房、不眠、眠気、めまい、ふらつき、口渴、胸やけ、悪心、嘔吐、便秘、熱感、倦怠感、血圧下降、錐体外路症状、パーキンソン症候群、振戦、筋強剛、流涎、ジスキネジア、舌のもつれ、言語障害、頸筋捻転、眼球回転、注視痙攣、嚥下困難、アカシジア、静坐不能、射精不能、睡眠障害、不穏、焦燥感、頭痛、頭重、浮遊感、興奮、躁転、躁状態、しごれ、運動失調、食欲不振、腹部不快感、AST上昇、ALT上昇、Al-P上昇、発疹、体重増加、浮腫、脱力感、排尿困難、性欲減退

記載場所 その他の副作用

頻度 5%未満

5. 乳房腫脹、勃起不全、錐体外路症状、パーキンソン症候群、振戦、筋強剛、流涎、舌のもつれ、焦燥感、発疹、浮腫、性欲減退、心電図異常、血圧上昇、胸内苦悶、頻脈、物忘れ、ぼんやり、徘徊、多動、抑制欠如、無欲状態、下痢、胸やけ、腹痛、食欲亢進、皮膚うっかり感、視力障害、眼球冷感、眼球重感、眼のちらつき、頻尿、腰痛、肩こり、熱感、発熱、発汗、鼻閉

記載場所 その他の副作用

頻度 0.1%未満

6. 急激な昇圧発作、内分泌機能異常、プロラクチン値上昇、錐体外路症状、嘔吐症状を不顕性化、悪性症候群、Syndrome malin、肺塞栓症、静脈血栓症、血栓塞栓症、哺乳障害、傾眠、呼吸障害、振戦、筋緊張低下、易刺激性、離脱症状、パーキンソン症候群、昏睡、死亡率上昇、精巣萎縮、妊娠率低下、下垂体腫瘍、乳腺腫瘍、腫瘍

記載場所 使用上の注意

頻度 頻度不明

スルピリド錠50mg「サワイ」の相互作用

1. 薬剤名等 : QT延長を起こすことが知られている薬剤

発現事象 QT延長・心室性不整脈等の重篤な副作用

投与条件 -

理由・原因 本剤及びこれらの薬剤はいずれもQT間隔を延長させるおそれがあるため、併用により作用が増強

指示 注意

2. 薬剤名等 : ジギタリス剤

発現事象 ジギタリス剤飽和時の指標となる恶心・嘔吐・食欲不振症状を不顕性化

投与条件 -

理由・原因 本剤の制吐作用

指示 注意

3. 薬剤名等 : ベンザミド系薬剤

発現事象 錐体外路症状、内分泌機能異常

投与条件 -

理由・原因 本剤及びこれらの薬剤は抗ドバミン作用を有するため、併用により抗ドバミン作用が強くあらわれる

指示 注意

4. 薬剤名等 : フェノチアジン系薬剤

発現事象 錐体外路症状、内分泌機能異常

投与条件 -

理由・原因 本剤及びこれらの薬剤は抗ドバミン作用を有するため、併用により抗ドバミン作用が強くあらわれる

指示 注意

5. 薬剤名等 : プチロフェノン系薬剤

発現事象	錐体外路症状、内分泌機能異常	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤は抗ドパミン作用を有するため、併用により抗ドパミン作用が強くあらわれる	指示	注意

6. 薬剤名等 : 中枢神経抑制剤

発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
理由・原因	本剤及びこれらの薬剤は中枢神経抑制作用を有する	指示	注意

7. 薬剤名等 : ドパミン作動薬

発現事象	相互に作用を減弱	投与条件	-
理由・原因	本剤は抗ドパミン作用を有するため、作用が拮抗	指示	注意

8. 薬剤名等 : アルコール

発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
理由・原因	ともに中枢神経抑制作用を有する	指示	注意

9. 薬剤名等 : 飲酒

発現事象	相互に中枢神経抑制作用を増強	投与条件	-
理由・原因	ともに中枢神経抑制作用を有する	指示	注意

